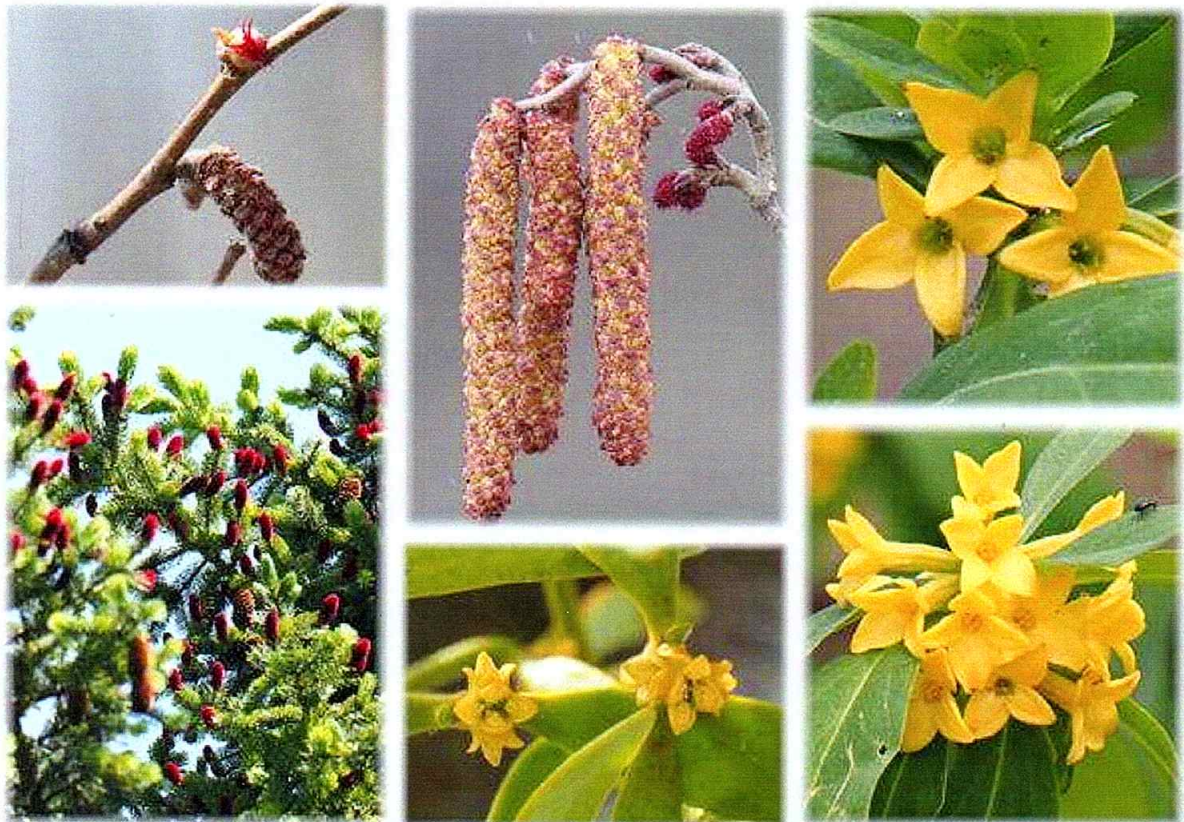


五バツ



2024 春季号 148

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ



<https://voluran.com/>

目 次

2024年 春季号 148

巻頭言 ボラレンの灯を絶やさない
 ～「楽しむ」の言葉で受け止めよう …… 会長 春日順雄 …… 1-2

2024(令和6)年度ボラレン「事業計画」一覧(案) …… 事務局 …… 3

同 「自然観察会等の予定」一般配布用(案) …… 事務局 …… 4

同 支部「自然観察会予定表」(案) …… 小樽支部、オホーツク支部 …… 5

同 研修案のお知らせ「エンレイソウ属現地研修会in恵庭公園」… 研修部 …… 6

寄稿 「円山登山観察会」に参加して …… 札幌市西区 高田郁子様 …… 7

投稿 ボラレンとの思い出や関わりについて …… 富良野市 南部栄一 …… 8-9

ここに注目! 公式動画サイトYoutube! 今後更に活用予定、Rara掲示板及び、
 ボラレンSNS人気ランニングご紹介/Facebook、Instagram …… 広報部 …… 10-11

投稿 「あっ、モモンガだ!!」 …… 清里町 千葉 亮 …… 12-13

// 植物の悲鳴 …… 恵庭市 小林英世 …… 14-15

自然観察NOW NO.76 アニマル・トラッキング 24.3.21 …… 恵庭市 小林英世 …… 16-17

パラボラ 「指定管理鳥獣」「指定野菜」って、なーに? …… 編集部 …… 18

事務局だより 2023年度第3回「役員会」の概要 …… 編集部 …… 19

情報コーナー 約1世紀ぶりの快挙! X(旧ツイッター)から
 「ムジナノシヨクダイ属」新属新種の発見 …… 編集部 …… 20

お知らせ 2024「ボランティア活動保険」加入者カードのお届け …… 事務局 …… 20

// 第39回「定期総会」「研修会」のお知らせ …… 事務局 …… 20

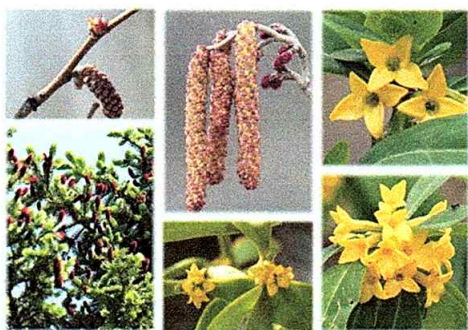
// お詫びとエゾマツ次号149の話題募集 …… 編集部 …… 20

// エゾマツ年間発行計画と編集要領<著作権関係追加> …… 編集部 …… 21

編集後記、奥付 …… 編集部 …… 22

2024 春「エゾマツ」148号/表紙の写真説明

編集部



今号の表紙は、単性花。雌しべだけを持つ”雌花”と、雄しべだけを持つ”雄花”。同じ株に雌花と雄花を咲かせる植物を雌雄異花、別の株にできるものを雌雄異株(しゅ)という。～写真説明/左上から時計回りに、
 ①カバノキ科ツノハシバミ:雌花と雄花・雄花序。雌雄異花。
 ②カバノキ科ケヤマハンノキ:雄花・尾状花序と右上にポチポチと赤褐色の雌花。雌雄異花。花粉症の要因の一つに。
 ③ジンチョウゲ科ナニワズ:雌花と、④同雄花。雌雄異株。
 ⑤ヤドリギ:雄花。雌雄異株。 ⑥マツ科エゾマツ:雌花と雄花(褐色)。雌雄異花。本誌のタイトル樹でもあります。

なお、①②⑥は、風媒花で雌雄の区別が一目瞭然ですが、
 ③④⑤は、虫媒花。虫たちに雌雄の区別なく訪花してもらう戦略か、ぱっと見、分かりにくいですね。
 ※裏表紙は、雪上を歩く昆虫・クモガタガガンボのオス個体。その生態、生活史にも興味が湧きました。

巻頭言 **ボラレンの灯を絶やさない～「楽しむ」の言葉で受け止めよう**

会長 春日 順雄

会員の皆さまには、総会や「エゾマツ」を通して、会員の高齢化、役員の担い手不足、会員数の減少という悩みを発信しています。アンケート結果は、会の存続を希望する声が多かったです。その声を受けて、ボラレンのこれから検討委員会・二つの検討チームは、ボラレンの灯を絶やさない検討を続けてきました。その報告書が出ました。4月開催の総会では、報告をどう受け止めるかの実践編を報告します。実践編を進める気持ち・心意気を考えてみました。

苦労も楽しみの境地だった牧野富太郎

テレビで富太郎が利尻岳で植物採集を行ったときの様子を扱っていました。植物採集は貪欲。夢中になりすぎて、予期せぬ山での泊まり。遭難寸前。とんでもない苦労でしたが富太郎にとっては喜びであったでしょう。金銭の使い方が下手でした。植物研究に没頭します。家庭は経済的に困窮します。借金取りも来ます。妻壽恵子の機転で切り抜けることもありました。「私は来る年も来る年も左の手では貧乏と戦い、右の手では学問と闘いました。その際そんなに貧乏していてもひとときもその学問と離れなく、又そう気を腐らかさずに研究を続けていたのは植物がとても好きだったからです。」（「植物と心中する男」から引用）小学校中退、その後、何らの学歴を持たず、ひたすら独学で大成したのは、植物をこよなく愛し、楽しんだからです。

「楽しむ」の言葉で次年度からの活動を行おう

「楽」と「苦」はワンセットです

役員だけでなくボラレン会員みんなで苦楽を共にしましょう

「楽あれば苦あり」・「苦あれば楽あり」・「苦楽を共にする」の言葉が示すように、「楽」と「苦」はワンセットです。苦労無しの「楽」は、ありません。いいこと、楽しいことの水面下にイッパイの工夫・苦労・創意などがあるでしょう。それらをひっくるめて「楽しむ」の言葉で受け止めよう。ボラレン役員とボラレン会員ひっくるめた苦楽が欲しい。

- 1, 自然観察NOWは執筆大変だろうが続けよう。読者が待っています。観察会下見のとき、会員参加が多いのは話題提供があるからです。執筆者がいつも同じという声が届きました。好きでやっているのではありません。ボラレンの灯を絶やさない為に頑張っているからこうなったのです。役員以外でも苦楽を共にする執筆者が欲しい。
- 2, 「エゾマツ」は、担当者頑張って充実してきました。会員間の絆を深めるために原稿依頼の働きかけもしています。近況報告でいい。原稿を書いてください。エゾマツ発行の苦楽を共にしましょう。会員同士の絆を深めましょう。
- 3, ボラレン名刺はヒットしました。ホームページの充実を含めて担当者の労苦がありました。パソコンやスマホでホームページにアクセスしてください。そして、気づきや褒め言葉が欲しいな。情報は双方向であるといい。メディアの発達はそれを可能にしています。

人それぞれの多様さを生かし、楽しむ

●観察会で多様さを楽しむ

- ◆班を構成する人の年齢の違い・自然の詳しさ・感じ方の違い・気づきを生かすことは、案内者一人では出来ない多様な観察会になります。多様さを楽しみ、案内人として成長しましょう。観察会はおおらかで柔軟で楽しむがいい。

- 1, 子どもと大人が混じったグループは活性化することが多いです
子どもはめざとい、気づきを言葉にします。子どもの気づきで大人が学ぶことが多い。大人は子どもを大事に見守り、いい雰囲気になることが多い。そして楽しい。
- 2, 初心者とベテランが混じったグループでは、ベテランが気遣うことが多い
ベテランは控え目であることが多い。知ったかぶりで場を壊すことはない。ベテランは案内人を助け、楽しい観察会になることが多い。初心者はベテランの仕草や言動から自然を見る目や目的に気づくことがあります。多様さの良さです。
- 3, 詳しくても、控え目で静かな参加者がいます。案内人の出番です。班の中で心を開いてくれると、楽しい観察会になることが多いです。
- 4, 気づきや探究心を言葉に出してくれる人が一人でもいる班は、活性化することが多い。会話も弾むことが多い。

●観察会案内人の多様さ～自分の目指す案内人像に磨きをかけよう

観察会案内の完成形はありません。絶えず追い求めるものです。案内人は自分にあった案内の仕方を追い求め楽しみましょう。それらの交流によってボラレンと案内人は成長します。多様性を大事にしましょう。そして、楽しみましょう。

- 1, ボラレンの仲間はシダ類が得意でないから、これを勉強して目だつてやろうと思ったという案内人がいました。その人のお陰でボラレンはシダ類に詳しくなりました。観察会参加者の中にはシダ類を知りたくてその人に集まるということもありました。
- 2, その人が次ぎに目つけたのがカヤツリグサ科のスゲ類でした。ここでもスゲの事が知りたくて集まる参加者がいました。ボラレンはスゲについても詳しくなってきました。案内人の進取の気風に魅力を感じたのでしょう。
- 3, 観察会案内に膨大な案内資料を持ち込む案内人がいます。説明は緻密で圧倒されます。完全に私のレベルを超えた案内人です。参加者の中にファンも出来ています。
- 4, 昆虫の種の数は、植物をしのぎます。活動域も地上・空中・水中・両極など植物をしのぎます。ボラレンは昆虫の知識に弱いかも。でも、詳しい人もいます。その人の真似をして昆虫のことが詳しくなってきました。
- 5, 得意の歌を歌わしめよ！観察会案内人は個性を發揮しましょう。得意さを追い求めよう。難しい事でも食いついてくる参加者は必ずいます。

ボラレンの灯を絶やさない気力と情熱と共感

アンケートでは、ボラレンの継続と何らかの協力をしますという人が多かったです。どうぞ、役員と会員の苦楽を共にする行動を示しましょう。やる気と情熱に火をつけましょう。ボラレン継続は知力でなく情を必要としています。理屈無しにボラレン続けるぞ！の情が大事です。

今から60数年前のことです。通教で東京にスクーリングに出かけました。クーラーは無し、光化学スモッグ警報が発令される。そんな厳しい環境の中で高齢な学長自らが講義をしました。講義をする者も受ける者も辛かった。居眠りをする、学長からチョークが飛んでくる。「居眠りなんてなんぞ！不届きだ！」という。そんな中で気迫と、いい言葉を戴いた。

「人生の最も苦しい損な場面を真っ先に微笑みを以って担当せよ」

この言葉は、老いた私の心に常に宿っています。

2024(令和6)年度 ボラレン「事業計画」一覧(案)

2024.3.8 現在
北海道ボランティア・レンジャー協議会

月	行事名	日(曜)開始時	予定会場 ◆共催9回、★主催観察会7回、*特記事項	摘要
4	2023会計監査	5(金)13:30-	開拓の村「札幌停車場第二ホール」	
	第4回役員会	6(土)13:00-	開拓の村「札幌停車場第二ホール」	
	☆会員研修会、39回定期総会	13(土)13:00-	かでの2.7「1070会議室」 *役員改選年<任期2年>	
	◆春の花を見つけよう	18(木)9:50-	自然ふれあい交流館 エゾユズリハコース	
	☆セイヨウオオマルハナバチ防除	27(土)10:00-	開拓の村前広場のエゾムラサキツツジ開花状況に連動	
5	◆春のありがとう観察会	11(土)9:50-	自然ふれあい交流館 A:桂、B:エゾユズリハ	
	第1回役員会	11(土)13:00-	自然ふれあい交流館	
	☆会員研修会*エンレイソウ	19(日)10:00-	恵庭公園、中央駐車場 *講師:特別顧問 大原先生	
	★前田森林公園自然観察会	26(日)10:00-	前田森林公園、新川駐車場	
	◆森の新緑観察会	6(木)9:50-	自然ふれあい交流館 エゾユズリハ→志文別→大沢 周回	
6	エゾマツ夏季号149 発行	7(金)13:00-	北野センター、自然ふれあい交流館 *投稿=5/17日途	
	★恵庭公園自然観察会	9(日)10:00-	恵庭公園、中央駐車場	
	★苦小牧自然観察会①	16(日)10:00-	苦小牧緑ヶ丘公園、金太郎の池駐車場	
	◆ボランティアレンジャー育成研修会	22(土)-23(日)	自然ふれあい交流館 第1回	
	☆オオハンゴンソウ防除	27(木)10:00-	自然ふれあい交流館、中央線 *協働事業	
	☆三角山登山 観察交流会	29(土)9:00-	札幌緑化会前、山の手入口登山口	
	★西岡水源地自然観察会	6(土)10:00-	西岡公園管理事務所前 *ハリオアマツバメ	
8	◆夏の森の観察会	4(日)9:50-	自然ふれあい交流館 桂コース	
	第2回役員会	4(日)13:00-	自然ふれあい交流館	
	★苦小牧自然観察会②	18(日)10:00-	苦小牧緑ヶ丘公園、金太郎の池駐車場	
	☆レベルアップ研修会	25(日)10:00-	自然ふれあい交流館 研修部企画 *グッズ&ビンゴ	
	☆円山登山観察交流会	31(土)10:00-	円山公園 八十八か所登山口 *マダラコウラナメクジ	
9	エゾマツ秋季号150 発行	6(金)13:00-	北野センター、自然ふれあい交流館 *投稿=8/16日途	
	◆秋の花でにぎわう森を歩こう	7(土)9:50-	自然ふれあい交流館 大沢コース	
10	◆秋の森の観察会	3(木)9:50-	自然ふれあい交流館 エゾユズリハ→志文別→大沢 周回	
	★晩秋の森観察会	13(日)10:00-	野幌森林公園 大沢口駐車場 大沢→エゾユズリハ周回	
11	◆秋のありがとう観察会	2(土)9:50-	自然ふれあい交流館 A:ふれあい、B:桂コース	
	2025年度事業計画検討会議	2(土)13:00-	自然ふれあい交流館	
12	エゾマツ冬季号151 発行	6(金)13:00-	北野センター、自然ふれあい交流館 *投稿=11/15日途	
1	★円山登山観察会	19(日)10:00-	円山公園 八十八か所登山口	
	第3回役員会	25(土)13:00-	自然ふれあい交流館	
2	◆冬の森の観察会	2(日)9:50-	自然ふれあい交流館 エゾユズリハ→志文別→大沢 周回	
	◆ボランティアレンジャー育成研修会	15(土)-16(日)	自然ふれあい交流館 第2回	
3	エゾマツ春季号152 発行	7(金)13:00-	札幌エルプラザ2F印刷室、会議室 *投稿=2/14日途	
	◆森の中で春をさがそう祝日	20(木)9:50-	自然ふれあい交流館 エゾユズリハ→志文別→大沢 周回	
4	2024会計監査	4(金)13:30-	自然ふれあい交流館	
	第4回役員会	5(土)13:00-	自然ふれあい交流館	
	☆会員研修会、40回定期総会	12(土)13:00-	かでの2.7	

凡例 ◆=自然ふれあい交流館との共催観察会 前日下見会「話題提供」、「自然観察NOW」 一般参加者;要/事前前申込
★=ボラレンの主催観察会 前日/下見会実施 一般参加者;事前申込不要、当日保険料@200-
☆=ボラレンの主催行事 ※観察会の終了時刻、原則12:00、円山のみ12:30(受付~解散までの間、行事保険の対象)

別途/ボラレン会員の「自然観察交流会」随時企画(別途、役員会決定をもって、会則に基づく行事=保険対象に位置付)
~先例・2023 野幌の森にヒグマ注意報&立入自粛要請~この間、観察会「中止」→代替企画;会員の「観察交流会」実施



2024 (令和6) 年度 「自然観察会」 等のご案内 2024. (案)

北海道ボランティア・レンジャー協議会 / 一般配布用

☆新型コロナウイルス感染症の状況等により、中止の場合があることを、ご了承下さい。



★ ボラレン主催の「自然観察会」・事前申込は不要です。当日、直接会場へ。

ボラレンQRコード

月	日(曜)	自然観察会	集合場所	開催時間	交通機関 / 〇おすすめポイントなど
5	26(日)	前田森林公園自然観察会	札幌市手稲区 前田森林公園 新川駐車場	10:00-12:00	地下鉄南北線北24条バスターミナル、中央バス北72前田森林公園、徒歩1分。JR手稲駅北口、JRバス循環手48・手稲駅北口行、大学通西、徒歩約10分。/〇造成・植栽の樹木等。全長600mの運河とポプラ並木に藤棚。様々な樹種が織りなす樹冠や花々も楽しみ。
6	9(日)	恵庭公園自然観察会	恵庭市 恵庭公園 中央駐車場	10:00-12:00	JR恵庭駅西口から恵庭駅通りを1.4kmほど南西へ、徒歩約18分(恵庭南高校近し)。/〇伏流水の清流ユカンボシ川に育つ緑鮮やかなクレソンをはじめ、季節の花々との出会に感動が..。
	16(日)	苫小牧緑ヶ丘公園自然観察会①	苫小牧市 緑ヶ丘公園 金太郎の池駐車場	10:00-12:00	JR苫小牧駅、駅北口から2.5 ⁺ 、徒歩約30分。道南バス03鉄北北口線総合運動公園行き、徒歩約15分。/〇金太郎の池周辺の植生をじっくり観察します。野鳥との出会いや昆虫類も楽しみ。
7	6(土)	西岡水源地自然観察会	札幌市南区、西岡公園管理事務所前	10:00-12:00	地下鉄南北線澄川駅、中央バス西岡循環線澄73、西岡水源地。〇湿地の木道から水生植物や運が良ければハリオアマツバメも。
8	18(日)	苫小牧緑ヶ丘公園自然観察会②	苫小牧市 緑ヶ丘公園 金太郎の池駐車場	10:00-12:00	交通機関は、6/16の欄、参照。 〇初夏と真夏、植物たちの変化も楽しみですね。池の岩で悠々と甲羅干しする条件付特定外来生物・ミンシツピアカミミガメ(ミドリガメ)、生態系の保全やペットの飼育管理を考えるきっかけに。
10	13(日)	晩秋の森観察会	野幌森林公園 大沢口駐車場	10:00-12:00	新札幌駅バスターミナル、夕鉄バス文京台線、大沢公園入口、徒歩7分。JRバス循環新82・循環新83、文京台線、文京台南町、徒歩10分。/〇深まり行く野幌の森を五感で存分に堪能しましょう。
1	19(日)	円山登山観察会	札幌市中央区円山 八十八か所登山口	10:00-12:30	地下鉄東西線円山公園駅、徒歩10分。 〇新雪を踏みしめ。冬芽と葉痕、カラ類、山頂からの眺望も抜群。

* ボラレン主催の自然観察会は、事前申込なしで参加できます。(ボラレン公式メルアド contact@voluran.com)
 なお、発熱や、体調の悪い方は、参加できません。 * 観察会当日、受付時に保険料として、@200円をお願いします。
 * コロナ対策の観点から「観察会参加者カード」記載のため、筆記具のご持参をお勧めします。
 双眼鏡やルーペなどの観察用具があれば、どうぞご持参下さい。また、昼食は、観察会終了後、各自でお摂りいただきます。
 * 気象警報の発令など荒天等で中止する場合があります。ボラレンのホームページでお確かめ下さい。 <http://voluran.com>
 * 交通機関の情報は、作成時のものですので、恐れ入りますが最寄りの営業所等に、再度、ご自身でご確認下さい。

◆ 自然ふれあい交流館とボラレンの共催「自然観察会」など・こちらは、事前申込が必要 → 自然ふれあい交流館へ

月	日(曜)	自然観察会	開催時間定員	摘要
4	18(木)	春の花を見つけよう	9:50-12:00 定員各回50人	集合場所 野幌森林公園「自然ふれあい交流館」 交通機関 ・新札幌駅バスターミナルよりバス利用で約20分、 (夕鉄バス文京通西行、大沢公園入口、徒歩7分 ・JRバス文京台循環線、文京台南町、徒歩10分 ・JR大塚駅南口より、徒歩約30分 ※共催「自然観察会」、「育成研修会」のお申し込み、問合せ先 → 自然ふれあい交流館 ☎011-386-5832 〃 ホームページ https://nopporo-vc.com 『北海道ボランティア・レンジャー育成研修会』のご案内 第1回 6月22日(土)~23日(日) 詳しくは、HPで。 第2回 2月15日(土)~16日(日) 知事の「受講証書」が!
5	11(土)	春のありがとう観察会		
6	6(木)	森の新緑観察会		
8	4(日)	夏の森の観察会		
9	7(土)	秋の花でにぎわう森を歩こう		
10	3(木)	秋の森の観察会		
11	2(土)	秋のありがとう観察会		
2	2(日)	冬の森の観察会		
3	20(木)	森の中で春をさがそう 祝日		

☆ 協働事業 ボラレンと石狩森林管理局、北海道博物館、自然ふれあい交流館などとの”協働”による取り組みです。

月	日(曜)	行事名	集合場所	実施時間	※特定外来生物のオオハンゴンソウを抜き取り、焼却処分します。 * 生い茂る夏草に分け入っての防除作業です。長靴、長袖、帽子、軍手のほか、可能な方は鎌や剪定ハサミなどをご持参下さい。マダニやウルシなども要注意です。肌の露出は避けましょう。
6	27(木)	オオハンゴンソウ防除	野幌森林公園、自然ふれあい交流館	10:00-12:00	

注：2024.3.8 現在の予定稿です。

2024年自然観察会予定表



北海道ボランティア・レンジャー協議会小樽支部

No	月/日(曜日)	行き先	行程	見どころ	集合場所・時間
1	4/21(日)	尻場山(岬) 余市	登山口～山頂 (往復)	春の植物 海浜植物	小樽駅前交番 (8時15分)
2	5/19(日)	朝里天狗岳	登山口～山頂 (往復)	ムラサキヤシオ (ヤマツツジ)	朝里湯の花 (8時30分)
3	6/9(日)	旭展望台	《半日コース》 商大～展望台	初夏の植物	中央バス商大終点前 (9時)
4	7/7(日)	塩谷丸山	登山口～山頂 (往復)	高原の植物	登山口駐車場 (9時)
5	9/8(日)	手宮富士	市内	初秋の植物	なえぼ公園 森の自然館前 (9時)
6	10/6(日)	天狗山～自然の村 (納会)	周辺林道	秋の植物	おたる自然の村公社共催 中央バス天狗山ロープウェイ終点 (9時)
7	2025 2/9(日)	からまつ公園周辺	《半日コース》 カンジキ	カンジキ	おたる自然の村公社共催 からまつ公園事務所 (9時)

参考

参加費は500円 交通費は各自負担願います
 地方観察会の場合は別途料金になります
 自家用車の方はその旨連絡願います。(駐車場・乗り合せの可否等あり)
 申込/問い合わせ、携帯 080-5593-3533(北嶋) 090-3892-8775(工藤)

編集部から *****

オホーツク支部については、総会前につき2024(令和6)年度の計画は、未入稿です。



相互交流の機会に・・・

2023年度は、小樽支部から前田森林公園、オホーツク支部からは野幌での自然観察会にそれぞれ遠路のご参加をいただき、楽しく交流を図ることができました。

一方、札幌からオホーツク支部に遠征した際には、御地では久々の穀雨も、予定された子ども向け自然観察会は雨天順延に。折角の機会でしたので、雨に煙るオホーツクの湿原や、紋別での自然写真展を堪能。片道約500Km、深夜に及ぶロングドライブとなりました。写真：エゾカンゾウの仲間、エゾキスゲの黄色い花は格別！

2024年度も、機会を見て相互交流が図れますよう会員の皆様水滴したたるエゾキスゲもぜひご予定下さい。

研修部より(研修案のお知らせ)

ボラレン研修(案)

～大原先生を迎えて～

エンレイソウ属現地観察研修会

in 恵庭公園

日 時 : 2024年5月19日(日) 10:00 ~ 12:00

場 所 : 恵庭公園

集合場所: 恵庭公園駐車場(管理棟側)

対 象: ボラレン会員のみ

参加費: 無料

申し込み: 資料等の準備のため人数を把握したいので

メール(メーリングリスト、“調整さん”も検討します)、電話(090-3899-3108 藤田)、

当日参加も可とします。5月1日より受付開始予定

※ 大原 雅 氏: ボラレン特別顧問(北海道環境財団理事長 北海道大学名誉教授)

昨年の忘年会にて石狩でのオオバナノエンレイソウ移植の状況を見てみたいと大原先生に熱く語った会員がいて、周りの会員も是非にと盛り上がりました。先生も検討しようというお返事でした。

ほどなく大原先生からメールが届き石狩については地権者等の問題で簡単には実施できないということで、日程、場所等の代替案が提案されました。それを受けて1月の役員会にてボラレンの事業計画と調整のうえ上記の計画案が承認されました。今回は会員の研修としていますので普段の観察会ではできないようなマニアックなやり取りが期待できます。本来は総会後にお知らせすべきところですが開催日前に全会員に内容をお伝えするには3月のエゾマツに案の掲載となりました。よろしくお願いします。

大原先生からのコメント(要約)です

“石狩のオオバナノエンレイソウ群落に興味を持っていただきありがとうございます。是非ボラレンの皆様に見ていただけるように、準備していきたいと思えます。

恵庭公園の件ですが、エンレイソウの雑種形成について皆さん興味がおありでしたらオオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、シラオイエンレイソウなどを紹介するいいチャンスかな、と思った次第です。……”

▶ ヒダカエンレイソウも見えていますし、シラオイエンレイソウらしき個体も特定

できそうです。恵庭公園で事前に怪しい個体を見かけた方はチェックしておいていただくと楽しみが増えそうです。



研修部長 藤田 潔

札幌市西区 高田 郁子

観察会に参加しました。

円山を登り始めたら、クマゲラが私たちを迎えてくれました。

直ぐ目の前で見ることができ、楽しくてよかったです。

普段は何気なく見過ごしてしまう樹木も、落ちた実、そしてその中に入っている種も実際に担当の方が見せてくれました。見たのは、桂の実と種です。

実は、落ちていたのを今まで見たことがありませんが、”種”は、初めてでした。

「こういう種なんだ」と、実感できました。

今年は、雪が少なく『ハイイヌガヤが雪の下で越冬できなくて枯れているものもあります』と聞いて、見たら枯れているものもたくさんありました。

雪は少なくとも、樹木にとってはダメなんですね。

また、去年の猛暑のせいで、実をつけている樹木が少ないことも聞きました。

身近な自然が、色々な事に影響を与えている事を、学ぶことができました。

色々とお話していただき、有難うございました。とても楽しかったです。

お世話していただき、ありがとうございました。

※「円山登山観察会」の開催状況は、ボラレンHPの「掲示板～Facebook」、「観察会報告」及び「Facebook－Youtube（記録動画）」に掲載しました。「掲示板」データを下記に再録

活動報告 01/08 06:09 No.622

昨日は、新春恒例の「円山登山観察会」。出発時に、『円山原始林は、国の天然記念物(大正10年指定)etc..』の甲斐あってか、これまた天然記念物の“クマゲラ”というお年玉が(写真1枚目)。

メモリアルな樹々たちを見上げ(写真2枚目)、あまりにも果実が少ないことに、昨今の気候変動を実感。

降りしきる湿り雪に、山頂からの大パノラマはお預けも、シャッターをお願いした登山客さまの素敵な感性で、パーッと弾けました(写真3枚目)。



写真1枚目 天然記念物のクマゲラ



写真2枚目 カツラの巨木を見上げ、実成を観察



写真3枚目 円山山頂(標高226m)で記念写真

富良野市 南部 栄一

自分はボラレンの最古参の一人と思うが、横路孝弘知事の日玉政策の一つとして、昭和61(1986)年に「ボランティア・レンジャー(自然解説員)」を養成する、と云うことで、全道の支庁から市町村の関係部署を通じて受講要請がありましたが、それに応える応募者も多く、自分も応募したのですがその年は選考に漏れて受講できませんでした。

翌、1987年の2回目、受講することができました。

今考えると、受講者には1. 2回生には東大富良野演習林の教務主任の宮本先生や、のちに北海道ボランティア・レンジャーの旗印の下で東大の高橋先生と北海道各地で植樹活動をし、現在も北大の藤原先生を中心に活動している団体を興した野月さんなど、個性的な方、多士済々でした。

それで、自分のことを。恥ずかしいのですが、受講を勧めたのが南富良野町の環境や自然保護の部署の方だったので、ボランティア・レンジャーは、自然保護の担い手を養成する知事お声がけのものと思っての応募でした。そうした事情から、間もなく設立された「ボラレン」にも当初から加入はしていましたが、幽霊会員でした。

その後、全道各地で会員研修が行われるようになり、富良野には宮田さんと云う女性会員もおり、当時比較的開放的でした東大演習林で自分が大麓山登山ガイドをしていたこともあり、ボラレン研修を計画、会員ではないが第1回受講生でした宮本先生の好意により、林学科学生の宿泊施設での研修となりました。2度の研修では、富良野岳原始ケ原湿原、東大演習林最高峰・大麓山&倒木更新、富良野西岳等など、楽しい有意義な思い出です。こうした研修は、全道各地で行われ、この参加者のかなりの方々がボラレンの中核メンバーとなり、会を引っ張ってくれたと思っていますし、幾人かの方々は、未だに年賀状の交換が続いています。

また、上川地域では、環境省の環境カウンセラー資格を平成14~16年に取得した富良野市の自分、下川町の宮田氏、当麻町の野呂氏が、南北の細長い上川の地域特性を活かした家族ぐるみの研修キャンプを数年に亘り続け、互いの地域を紹介しあい講演活動をしたものです。

紹介した野呂一夫さんらの編んだ『大雪の高山植物』は、初版が昭和53(1978)年というから、



50年近く前の発行ですが、その後発行された多くの“植物図鑑”の紹介方法のモデルとも云える本で、今日でも図書館や古書店で目にすることがあります。

自分の職業は、牛馬豚などの産業動物の臨床獣医師。趣味は、一貫して登山で若い頃から休日は天気と相談しながら、時には家族と登山でした。

←挿絵『大雪の高山植物』野呂一夫・山口

正弘・田村健太郎 共著 北海道新聞社刊

p42-43「サンカヨウ」・・読者と高山植物を繋ぐ架け橋になればと、主な61種について随想風の文章も添えられている。

伴った資格も、環境庁の自然公園指導員「大雪地区」、アマチュア無線3級、山岳連盟「北海道自然保護常任自然保護委員」、北海道アウトドアガイド「夏山」、森林インストラクター、ノルディック・ウオーキングインストラクター等など、山がらみのものばかりですが、山岳ガイドについては、今年の3月更新時期ですが体力、年齢的にムリと判断、更新しない心算です。

さて、ボラレンですが、今のような在り方では札幌圏中心のローカルな会となってしまうと危惧しています。

アウトドアに関心のある方は決して少なくないし、自分の住む富良野近辺でも、東大演習林では「森林インストラクター」を養成し、今は、小中学生の案内・説明中心ですが、市の観光課などでは、内外の方々への方向を考えているようですし、上富良野町や美瑛町では「ジオパーク・インストラクター養成講座」を持ち、活動していますが好評のようです。

富良野市でも、観光やスキーのボランティア・ガイドの需要も多いようです。

また、南富良野町の高校では、アウトドア科を売りに生徒募集をしています。

近年、趣味・スポーツ・文化団体等の諸分野でも、関心の多様化、高齢化などで何処も運営に苦勞していますし、働き方改革や働き手不足で、ボランティア活動は全ての分野で人材確保が難しく、自分の所属する山岳会では、動植物、写真、釣り、スキー、スノーシューなどの催しに参加し交流する中で”会員募集”をしていますし、ノルディック・ウオーキングでは、スポーツ協会に加盟し、他スポーツの引退者、老人クラブ、地域の行事に参加する中で会員を増やしています。

こうした、地域と何らかの接点をボラレンの今の力ではムリと思うので、行政、特に道の応援を考えることだと思えます。

当初のように、各支庁（現：総合振興局・振興局）を通して、全道の市町村の教育委員会や観光課等に情報を流して貰わない限り、いつまでも難しさは続くと思えます。

参考まで、「北海道アウトドアガイド」も、一時”資格を取得しても見合う利得が無い”と云うことで応募者も先細ったり、資格更新をしない方もあったりして、持続がどうか？という時期もありましたが、道が有資格者の在る会社、個人を紹介することを続ける内に現在のような形になりました。

それと、ボランティアの概念が昔と随分変わりつつあると思えます。

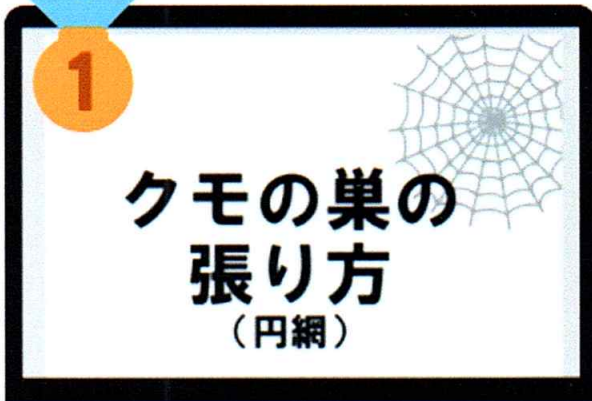
自分達がボランティア活動をしていた頃は、手弁当が当たり前でしたが、最近では先に紹介した東大演習林森林案内、ジオパーク案内、観光案内は、参加団体・個人は有料であり、インストラクター（ガイド）には、資格や拘束時間、技術などに応じて、名目はいろいろですが何某かの報酬が支払われている。

お金を払ってでも満たされる案内ができる人材が求められている、と云うことです。

ボラレンも、こうした事を考える時期に来ているのでは？

ボラレンの活動もしていない”後期高齢者の戯れ言”を書き連ねましたが、自分の気持ちを率直に記しました。

 **公式動画サイトYoutube！今後更に活用予定**



話題提供資料を元に動画化。
ショート動画は大人気



冬の登山観察会、ダイジェスト
で楽しい雰囲気をお届け。

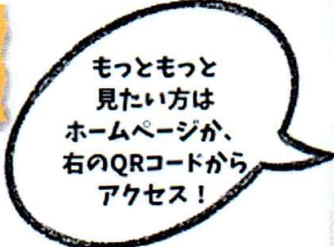


大人気 ボラレン掲示板 も継続運用中！
累計カウンター数 なんと35,000超！



2020年から現在(2024/2現在)まで
その数640投稿！季節に合った楽しい森の様子は、
毎回の更新がとても楽しみです。

SNS等 共同投稿者募集中！
広報部までご一報下さい。

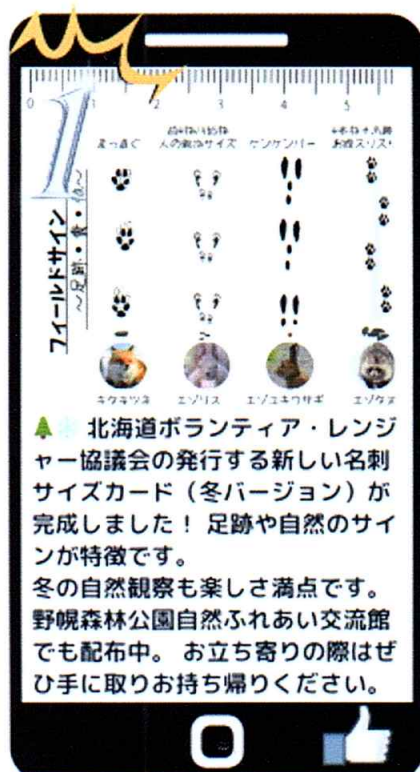


<https://voluran.com/linktree/linktree.html>

ボラレンSNS 人気ランキングご紹介

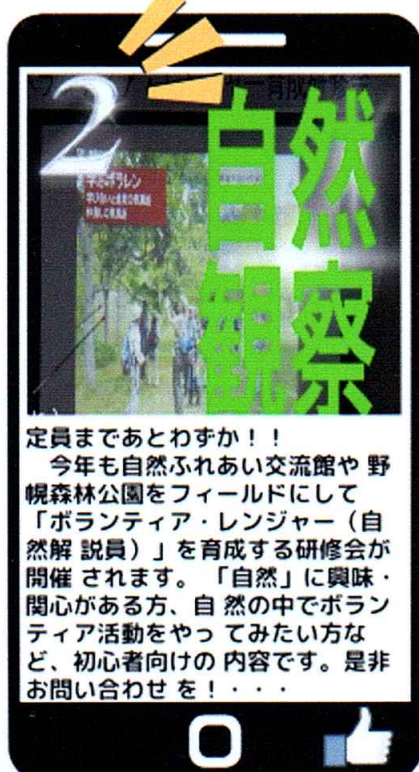
始めたばかりのSNSですが、多くの閲覧ありがとうございます。

(90日間の閲覧数 Best 6)



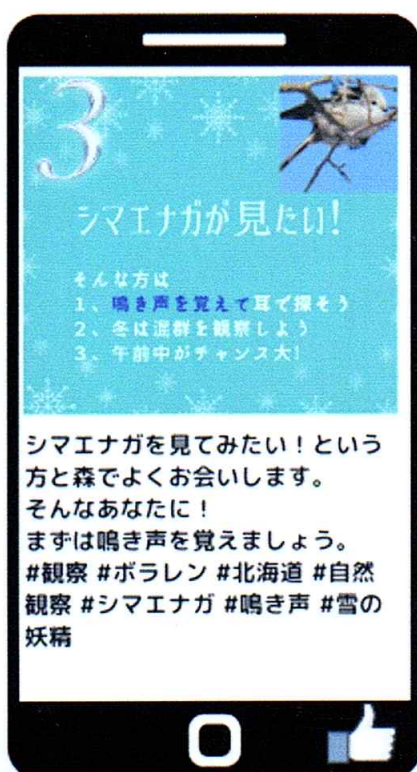
▲北海道ボランティア・レンジャー協議会の発行する新しい名刺サイズカード(冬バージョン)が完成しました！足跡や自然のサインが特徴です。
冬の自然観察も楽しさ満点です。野幌森林公園自然ふれあい交流館でも配布中。お立ち寄りの際はぜひ手に取りお持ち帰りください。

ボラレンカード。季節柄でしょうが、地道に閲覧数増加中！



定員まであとわずか！！
今年も自然ふれあい交流館や野幌森林公園をフィールドにして「ボランティア・レンジャー(自然解説員)」を育成する研修会が開催されます。「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をやってみてみたい方など、初心者向けの内容です。是非お問い合わせを！・・・

育成研修会案内！沢山の方に閲覧いただきました！



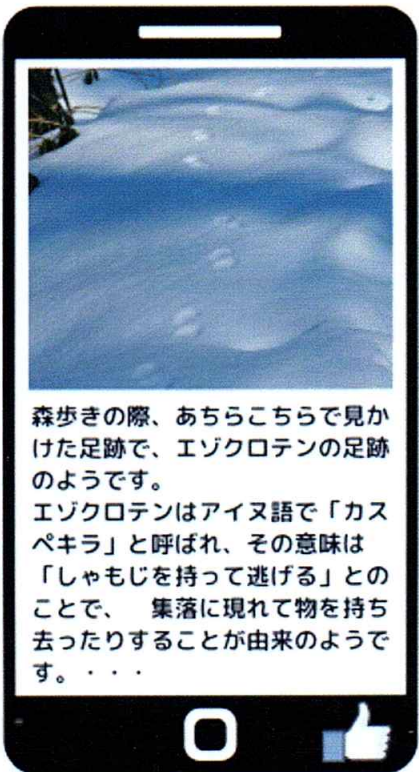
そんな方は
1. 鳴き声を覚えて耳で探そう
2. 冬は混群を観察しよう
3. 午前中がチャンス大！
シマエナガを見てみたい！という方と森でよくお会いします。そんなあなたに！まずは鳴き声を覚えましょう。
#観察 #ボラレン #北海道 #自然観察 #シマエナガ #鳴き声 #雪の妖精

すごい人気のシマエナガ 広報担当に任命したいかも^^



「昆虫病原性糸状菌」(エントモファガグリリ) 8月野幌森林公園の中央線を散策しているとオオアワダチソウの花に死んで茶色に変色したものや今にも死にそうになり上に向かって歩いているミカドフキバッタを数匹見つけた。バッタの「頂上病」・・・

大先輩M・Kさんの投稿。興味深い内容で閲覧多数！



森歩きの際、あちらこちらで見かけた足跡で、エゾクロテンの足跡のようです。
エゾクロテンはアイヌ語で「カスペキラ」と呼ばれ、その意味は「しゃもじを持って逃げる」とのこと。集落に現れて物を持ち去ったりすることが由来のようです。・・・

こちらも足跡ネタですが、ボラレンカードには無い種類。



カササギ(カチガラス) スズメ目カラス科。
国内外来種。豊臣秀吉が朝鮮半島から九州に持ち込み、九州北西部の地域で定着したとも言われているが、北海道のものはロシアから貨物船に乗って来ていた説が有力とのこと。・・・

恵庭での鳥情報。道内、地域限定せずに情報を届けます！

投稿 「あっ、モモンガだ!!」

学名：*Pteromys volans orii* (Kuroda, 1921)

和名：エゾモモンガ (蝦夷小鼯鼠)

オホーツク支部 清里町 千葉 亮

多くの道民は、その写真を日にしたことがあり、皆が一様に「可愛い!!」と奇声を発する動物はそれほど多くは無いと思う。まして、その子供にあっては、大きな象やパンダ、ヒグマの子供だって非常に可愛い。でも「親も可愛い!？」と聞かれるとそれは話が別になる。

今回、道民はもとより国民の多くの方から、絶対的支持を受けつつも意外と遠いアイドル? 「エゾモモンガ」について寄稿させて貰う事となった。

一部地域では、融雪期の日中も活発に求愛活動をするシーンを狙って素人カメラマンが巣穴に群がり、黒く一つ目に輝くガラス玉を向け、シャッターを切っている姿がSNSに投稿されることがあり、彼女?たちへの迷惑行動はエスカレートする。エゾクロウも同様の迷惑をこうむっている。

したがって、私の投稿も利用の仕方次第では同様の被害を招きかねないので、あくまでもノンフィクションですが「ふ～ん、そうなんだ～」程度でお納めいただけると幸いです。

さて、改めて皆さんは“エゾモモンガ”を生でご覧になられたことがあるでしょうか!?



写真：暗い時間帯の撮影で見にくいですが、巣穴から顔を出した。

皆さんの様に、春夏秋冬山野に東方西走しているとすれば、半数以上の方が飛翔する姿を「すでに見てますよ!」という声が聞こえそうですが、私が出会ったのはつい最近の話なんです。

私が居住する清里町は、「日本百名山」で「花の百名山」でもある“斜里岳”の麓にある農業中心の町で、人口は11月末現在3,732人の小さな町です。しかし、町周辺の自然は乏しく、我が家の横にあるおおよそ20ヘクタールほどの公園が、町で唯一の自然公園になります。ただ、15分も車を走らせると斜里岳道立公園があり、30分だと阿寒・摩周国立公園の一部に行くことも出来ます。

平成5年、犬を飼う切っ掛けで公園に隣接する形で自宅を建て、毎日小鳥や小動物たちの訪問を受け穏やかに暮らしています。そんなある日、日没から30分位経った夕暮れに何気なく散歩に出掛けようと家を出ると、薄暗くなった右目の視野に、今までに経験のない動く物体が木から木へ飛んだように感じたのでした。「ん、何だ!？」何かが飛んだと思った方向は、我が家の敷地内にある樹齢4,50年のハルニレの木で高さは優に20mほど有ります。そうこうしていると、その木にネズミの様な、エゾリスの様な毛むくじゃらの動物が、必死にそれでいて素早く私の姿を避けるように木の裏側を登り上がる姿がボンヤリと見えたのでした。「えっ、何!？」と思った瞬間、その毛むくじゃらの物体は私の予想を超越し、ハルニレの天辺近くから我が家の入口に植えてある“モミの木”に大飛翔!ボンヤリだけど分かった事は、羽根の様に手足を広げて飛ぶ動物であるということ。「ネズミやエゾリスの様な毛皮を着て、木から木へ手を広げて飛べる動物!ひょっとしてモモンガ!?えっ、憧れの“エゾモモンガ”かな?」「まさか、こんな身近に居る訳がない。」と考えあぐねていると、もう一個続いて飛んだ!! 視界がどんどん暗く見えない状況から、その日の追及は諦め、翌日の同じ時間に同じ場所で待つこととした。

散歩から帰り妻に『「エゾモモンガ」らしいのが居て、木から木に飛んでいた。感動した!!』と伝えてもそっけない返事。残念!その晩は興奮気味で、妄想に耽けながら明日を早く迎えたく、早々床に就いた。

さて、翌日は万全な体制で観察したいと考えるも、住人の住処が特定できずモヤモヤを抱えつつ、目見当な位置での待ち伏せ作戦とした。

目星をつけたドロノキには、キツツキが残した古巣が二つあり、その前の道路脇の歩道に立ち、後ろを通過する車には何をしているかを悟られない様、出てくると信じて待っていた。他人から見ると、我が家を狙って下見している非常に怪しい盗人の様に見えても不思議ではないと思いながら心の中で笑っていた。

そんな私を気遣ったのか、モモンガは二つある巣穴の内、下の穴から顔を出し私の方を見ているではないですか!!やはり予想は的中していた。真ん丸で顔の三分の一が目の様な愛くるしい顔は、少し縦長の巣穴から満杯に顔を出しこっちの方を見ているのです。巣穴の木は横を走る架線の邪魔になることから、北電と3年ほど前に協議し最低限の枝を残し上部を切った木で、芯になる枝が切られ、敵から視界を遮る様な遮蔽物が無い危険極まりない木なのである。



写真：落下したモミの木の小枝。



写真：モミの葉、一枚一枚にモモンガの食痕・歯形が...

餌場のモミの木にもその巣穴にも戻って来ていない。

そんな中、コロナ禍が収まり久々の地元神社祭が8月25日にあり、私はお祭り会場の境内に設置されたテーブルで、暑かった夏を振り返りながら冷えたビールを飲んでいました。余興が始まるまで少し間があったがまだ日没前の5時半頃、私のテーブルの上を左から右へもの凄い速度で飛んでくる何かを感じ驚いた。その瞬間、物体はあっという間に通過し道路わきに立つドドマツに着地!

「え〜、モモンガ!!」

何を血迷ったか、音楽が掛かり鎮守の森のあちらこちらに電気が点灯し、普段と違う賑やかなこの場所に、50m以上の滑空でお祭り会場に姿を現したのです。

我が家の居住穴から姿を消して約半年後、私は元気ですと言わんばかりに、私のテーブルの上を飛んで見せた“エゾモモンガ”はその後も元気なのだろうか!?

“エゾモモンガ”と“エゾリス”は、冬眠しない仲間だが、大きな違いがある。それは冬期間、モモンガは通りすがりの血縁関係外の相手でも巣穴に全て来客として受け入れる事。エゾリスは、血縁以外の同居を許さない事である。

何と大楽かで心優しい事か!近い将来愛すべき隣人が、また戻ってこられるように、モミの木を育て大きくして精進し訪問を待ちたい。

とあるテレビドラマで植物の出す音で犯人を探し出すという回があり、そんなことドラマの世界なのか本当の事なのか調べてみました。

トマトなどの植物は、ストレスを受けると可聴域外で音波を発していることがわかったそうです。イスラエルのテルアビブ大学の研究者 Itzhak Khait 教授率いるチームの研究によると、トマトやタバコの木（ナス科の植物）は水不足によるストレスを受けたり、茎が切断されたりすると、人間には聴き取れない周波数の音を出すというのです。ドラマでは植物を切断した時の音で犯人を探し出しました。

「この発見は、沈黙していると思われていた植物に対する考えを変えるかもしれない」と研究チームは語っています。この研究論文は、現在は未査読の状況で、生物学関連のプレプリントサーバー「bioRxiv (バイオアーカイヴ)」にて公開されています。[文末の URL 参照](#)

昆虫や動物は、5 ㍻離れた場所でもその音を聞いて反応している可能性もあるそうです。植物のストレスによる悲鳴を検出できるようになれば、精密農業の分野に改革を起こせる可能性があるそうです。

ファンタジーの世界には、マンドラゴラという悲鳴をあげる植物がありますが、どうやら現実の植物たちもストレスを受けると、人間には聴き取れない超音波で悲鳴を上げていたようです。

どうやって音を出すのか？

植物の悲鳴：植物はストレスを受けた場合、色や匂い、形状などに変化が現れることはよく知られています。そのため、あえて音を発しているという部分に着目して研究されたことはありませんでした。しかし、植物以外の周囲の生き物たちは基本的に音を発する能力を有しており、また音に反応してその影響を受けます。そこで今回の研究者たちは、「植物が音を放射する能力を持っていて、周囲の動物や植物へ影響を与えている可能性はないか」と考え調査を行ったのです。調査されたのはトマトとタバコの植物。タバコの植物は一般にあまり馴染みのあるものではありませんが、これはナス科の植物です。研究では、まず音響室内に置かれた植物に 2 つの指向性マイクを向けて調査されました。マイクを 2 つ使ったのは、電気ノイズの音と区別するため、また植物間での干渉による音の誤検出をなくすためです。音の検出環境。音響ボックスの中で 2 つのマイクを使い検出されている。

/Credit:Itzhak Khait 植物はそれぞれ異なる状態が設定されていました。この調査の結果、2 つの状態の植物が明らかに他の植物より多くの音を発していることがわかりました。

それは乾燥状態（干ばつのストレス）と切断状態の植物です。植物は声帯を持っているわけではないので、ぎゃーと悲鳴を上げているわけではありません。植物の出す音はキャビテーションと呼ばれる現象で生じる音です。キャビテーションとは、液体が流れるときに気泡が生じることを言います。このキャビテーションの気泡の破裂などによる振動が音を発して

いるのです。

植物の中には水を輸送する維管束が走っていますが、ここでキャビテーションが起きることで、植物の周りにはクリック音のようなものが生じるのです。私達エンジンを修繕している技術者にとってもこのキャビテーションは永遠の課題です。液体の気泡によりエンジン、噴射ポンプに穴が開いたり、削れたりする現象が起きます。

今回の調査では、この音が人間には聞こえない周波数で周囲 5 ㍎程度まで響いていたと報告されています。

そして、このクリック音は植物が乾燥していたり、切断された場合、通常より明らかに多く発生していたのです。乾燥状態のとき、トマトは 1 時間に平均 35 回、タバコは 11 回、茎の切断時には、トマトが 1 時間平均 25 回、タバコは 15 回の音を立てていました。

これ以外の状態の植物では、クリック音は 1 時間に 1 回程度しか出ていません。ここには顕著な違いが見て取れます。さらにこの発生する音は、植物が乾燥のストレスを受けているか、切断のストレスを受けているかで、異なる音の強さや周波数を出していることもわかりました。そこで、研究チームはこの超音波を機械学習によって人工知能に覚えさせ、他の騒音と区別して測定できるようにしました。

その結果、温室内に置かれた植物が乾燥しているのか、切断されてストレスを受けているのか、正確に特定することに成功したのです。この成果は、農作物の状態をきめ細かく制御して、収穫量や品質の向上を図る精密農業の分野に役立てると考えられます。

この研究は、まだ植物の他のストレス状態については詳細に検証されていません。またこの音が周囲の動植物に影響するかも明らかになっていません。しかし、この超音波の周波数は昆虫やマウスなどは聞き取ることが可能なものであり、周囲 5 ㍎まで響いているという事実も考慮すると、この植物の音が他の生物にも影響している可能性は十分に考えられます。ただ、植物が周囲へサインを送る手段は、他にもすでに多く発見されており、昆虫が音に反応するという考えは現状推測の域を出ないものです。

実際は悲鳴というよりは、意図せず発せられる音のようですが、予備実験によるとこうした音はサボテンでも確認できているそうです。植物は人間には聞こえない高い音を出すことが研究で明らかになった。ストレスがかかったり、感染症になったり、切断されたりすると、植物はクリック音を発する。昆虫や他の動物は、この音を聞き取り、理解できるかもしれない。あなたは自宅にある植物の世話をきちんとしているだろうか。もしかしたら植物が発する大きな音で、家中が満たされているのかもしれない。だがその音は高すぎて、人間には聞こえない。「人間は通常 16 キロヘルツまで聞こえる。一方、これらの音はほとんどが 40 から 80 キロヘルツの間にある」と、この研究の上級執筆者でテルアビブ大学の進化生物学者・理論家であるリラック・ハダニー (Lilach Hadany) は Insider に語っています。

出典：<https://www.biorxiv.org/content/10.1101/507590v4> にアクセスしてみてください。

自然観察 NOW

NO.76

野幌森林公園自然情報

発行：2024年3月21日

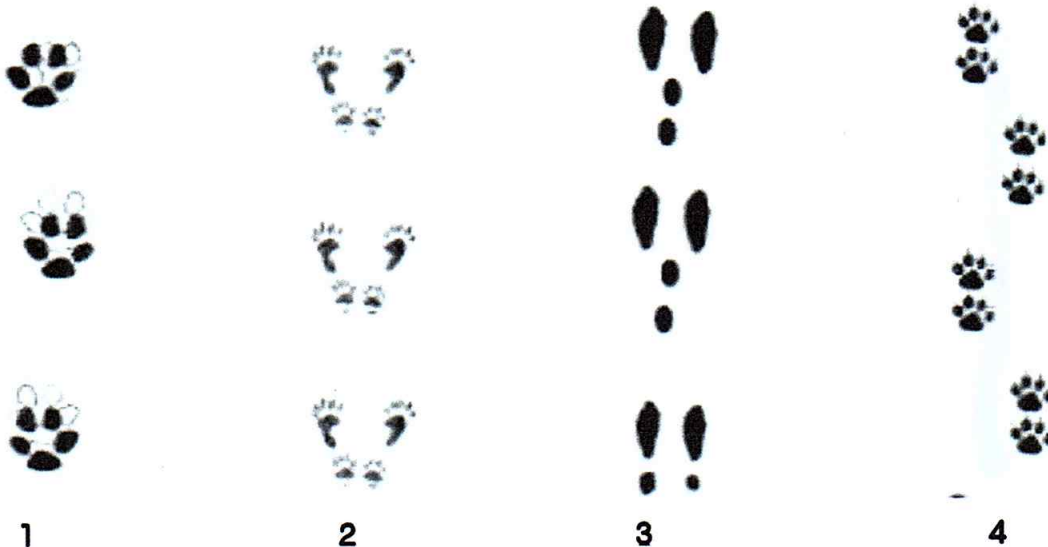
北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>



アニマル・トラッキング

春が近づき、冬眠せずに活動している野生動物の足跡やウンチ、エサの食べ残しなど「フィールドサイン」が見つかりやすくなります。これらフィールドサインを手掛かりに、普段はあまり見ることができない動物たちの暮らしぶりを想像してみるのも、森の楽しみ方のひとつです。アニマル・トラッキングの手始めは足跡の鑑定です。



1、キタキツネは最近どこでも見かけるようになり、足跡もたくさん残されています。イヌと似てますが、左

右の足跡にぶれがなく、ほとんど一直線なのが特徴です。しかし、全速力で走った場合にはイヌの駆足やウサギの並足のような足跡になります。野生のキツネは野ネズミや昆虫を餌にしています。冬はもっぱら野ネズミを捕っているようです。キツネが雪を掘って野ネズミを探した跡を見ることがあります。

2・3、ウサギとリスはともに並足が跳躍前進であるという特徴があります。ウサギはまれに交互歩行をする

ことがあります。リスの交互歩行は地上で見る事が無いと思います。

北海道のウサギ科にはエゾユキウサギとエゾナキウサギがありますが、ナキウサギは高山の岩石帯に生息に限られる上、冬は餌をため込んで穴籠もりするので足跡を見る機会はほとんどありません。

リス科にはエゾリスの他にエゾシマリスとエゾモモンガがいます。シマリスは巣穴に餌をため込んで冬籠もりをし、春先まで雪上に出ることはありません。モモンガは木から木に滑空して飛び移るので地上に降りることはほとんどなく、木から落ちたとき以外、足跡を見ることはありません。

北海道の野ウサギはエゾユキウサギといい、山野のどこでも足跡を見かけます。並足の跡で大きくて横に並んでいるのが後足、その後に小さく縦に並んでいるのが前足の跡です。いわゆるウサギ跳びという跳躍前進です。駆足になっても、歩幅が大きくなって乱れる以外、変わりはありません。イヌ科の動

物のような交互歩行はほとんどしません。

エゾユキウサギの冬季の食べ物は木の皮、小枝、芽、枯れ草などです。あちこちで食事をした跡が見られ、その場所には糞が残されていることがよくあります。

野ウサギの足跡をどこまでも辿っていくと、急に足跡がとぎれてしまうことがあります。これを「トメ足」と言います。キツネなどの天敵に跡をつけられて、寝込みを襲われないための知恵です。足跡を消す手口は、数歩ほど後戻りをしてから遠くにジャンプするのです。しかし、人間はそのことを知っているので、「トメ足」を見つけると、近くにウサギが寝ているなどわかってしまうのです。エゾリスは移動するとき、木を飛び移ることが多く、地上に降りるのは遠く離れた木に行くときか、餌を探すときです。秋にクルミなどの木の実を地中に埋めておいて、冬の間はこれを雪の下から掘り出して食べます。雪の下のをよく見つけるものだと思いますが、見つからないことも多いようです。見つからなかったクルミはやがて芽を出して生長するので、エゾリスが繁殖を手助けしていることになります。

エゾリスが餌を探すのは主に夜明けの頃ですが、それ以外の時にも見ることは多いので、運が良ければクルミを掘っている姿を見ることができそうです。

4.エゾタヌキの並足の跡は、イヌによく似ていて見分けるのはなかなかたいへんです。

イヌよりも足が短いので、足を引きずったような跡や深雪では腹をすった跡が見分けるポイントです。

タヌキの主な餌は、地中の昆虫や小動物、果実などです。タヌキはキツネほど俊敏ではないので、餌の不足する北海道の冬は厳しいものです。さらに、タヌキの足の裏（肉球）にはキツネのような毛が生えていないそうです。これでは足が冷たいので、雪の上を歩くのは苦手なのでしょう。

足跡以外のフィルードサイン



エゾユキウサギの糞



エゾリスの糞と足跡



キタキツネの糞（ネズミ骨入り）



エゾリスの食痕（カラマツ）



エゾリスの食痕（オニグルミ）



エゾリスの食痕（ツタウルシ）

(写真：自然ふれあい交流館提供)

今後の観察会予定

・春の花を見つけよう 4月18日(木) 9:50-12:00 自然ふれあい交流館～エゾユズリハコース往復"

文責：小林 英世

～ 最近話題の、ヒグマが「指定管理鳥獣」、ブロッコリーが「指定野菜」とは？

- 指定管理鳥獣：エゾシカに続き、「ヒグマ」も追加指定に ～早ければ、この4月にも
指定管理鳥獣等捕獲事業は、2014(平成26)年度の鳥獣保護法（鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律：大正7年法律第32号）の改正により創設された制度。集中的かつ広域的に管理を図る必要があるとして、環境大臣が定めた鳥獣（指定管理鳥獣）について、都道府県が捕獲等を行うことができることになり、2015(平成27)年2月、ニホンジカ(エゾシカを含む)及びイノシシが指定されたのに続き、この4月にもヒグマとツキノワグマが新たに指定される見通し。

- ・ エゾシカ：既に身近なところでも、捕獲事業が
捕獲事業は、「北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画」（道庁策定）に基づき、全道各地で実施されています。

野幌の森でも、エゾシカによる被害を防止するため、令和5年1月中旬から3月中旬にかけて、囲いわな1基による捕獲事業が行われました。（委託事業／捕獲目標が50頭に対し、結果は？、あまり芳しくなかった？）

写真：右／野幌の越冬エゾシカ、「樹皮はぎ」が横行 →



- ・ ヒグマ：野幌の森にも出没！・・立入自粛で自然観察会ほか軒並み中止に
1990年を最後に、“種絶滅の恐れ”から春グマ駆除を廃止。30年有余の歳月の間に個体数が増加。野幌の森では、2019年6月10日、実に78年振りのヒグマ出没が確認（9/5捕獲駆除）に続き、2023年8月18日から3か月間にわたって”ヒグマ注意報”の発令に伴い、“立入自粛要請”から、自然観察会をはじめ、各種行事が相次いで中止に。
無闇な殺生は避けなければなりません、増えすぎによる軋轢は、思わぬ事故を招きかねません。警戒おさおさ怠りなくも、どうか自然観察会が無事に開催できますよう、事の進展を願うものです。

- ・ ヒグマ：環境省の「レッドリスト」から外れる？・・2025年度にも除外の動き
道内に生息するヒグマは、生息域によって5つの地域個体群に分類され、1991年から石狩西部、2007年から天塩・増毛が、“絶滅の恐れがある地域個体群”としてリストに掲載されてきました。しかし、生息数の回復に伴い、来年度のリスト更新期に除外される模様です（環境省）。

- 指定野菜：2026には、ブロッコリーが昇格へ

「指定野菜」とは、野菜生産出荷安定法（昭和41年法律第103号）に基づく制度で、全国的に流通し、特に消費量が多く重要な野菜として、現在、キャベツやホウレンソウなど14品目が産地とセットで指定されています。2026年度からは、ブロッコリーが特定野菜から指定野菜に昇格すること。



緑黄色で人気の健康野菜”ブロッコリー”（写真；左参照）。

道内産の端境期には、他県の主産地から、通年で野菜売り場を賑わせていますね。6-10月の毎朝、収穫に携わることもあり、感慨もひとしおです(´_`)

指定野菜になると、ブロッコリーも国の需給ガイドラインに基づいて供給計画を立てるので、計画的な生産・供給につながり、生産者が安定的に供給できるようになるとともに、価格が大きく下落した際には国から生産者への補助金も手厚くなるようです。生産者には朗報？

なお、指定野菜に次いで地域農業振興上の重要性等からこれに準ずる重要な野菜としてアスパラやコマツナ、チンゲンサイなど35品目が「特定野菜」に、その他43品目が「特産野菜」に指定されています（農林水産省）。

文責 藤吉 功

2024. 1. 13(土)13:30-16:30

自然ふれあい交流館 出席6、欠席5

○ 報告事項

第2回役員会以降の活動状況について、それぞれ所管部から報告

- ・ボラレンのこれから検討委員会「2つの検討チーム」報告書は、エゾマツ147号で既報
- ・11.19 Web臨時役員会にて、ボラレン活動「鳥瞰図」と「4つの視点」協議了承
- ・12.17 三役部長会議にて、第3回役員会の事前協議
- ・12. 8「役員選考委員会」の設置と選考委員長からの告示は、エゾマツ147号で既報
～選考委員長宛自薦他薦の〆切日、現役員会の会長宛意向表明は、各々 2.20迄に
- ・2023年度「事業報告」2023.4～2024.1の間における集約状況の情報共有と補足確認

○ 協議事項

- ・ボラレンのこれから検討委員会「2つの検討チーム」の成果を今後の会務に活かす
「4つの視点」と「行動目標」をボラレンの会務として明記する、会長案の協議了承
- ・2024年度「事業計画」(案)の検討協議
事務局関係「観察会」(共催9回、主催7回)「会員の観察交流会」等の検討協議/別表
ヒグマ注意報の発令&自粛要請等で「中止」の際、代替企画を検討
～会員の交流機会を確保するため、Web臨時役員会等で協議し会則行事扱いに。
主催観察会で参加者から徴収する参加費(保険料)→@200円に引上案
共催観察会での「自然観察NOW」前日の「話題提供」(会員研鑽)は継続
研修部関係 エンレイソウ研修会→5.19 恵庭公園、講師：特別顧問 大原先生
きのこ研修会→諸般の事情により実施見送り
レベルアップ研修会→観察会グッズ、ビンゴゲーム等の作成など
広報部関係 HP、ボラレンカードなどは、継続
ボラレン缶バッジの新規作成検討
編集部関係 エゾマツの季刊発行継続(秋季号が通巻150号→特集企画の検討)
- ・2023「ボランティア・レンジャー育成研修会」第2回(3/9-10)の共催対応
模擬観察会のガイド役及び全体の運営サポートにあたる会員等の調整
- ・第39回定期総会(2024.4.13)に向け検討協議 → 最終的には、次回役員会で決定。
冒頭報告 ボラレンのこれから検討委員会「2つの検討チーム」報告書について
同 報告を踏まえたボラレンの今後の取組について
議事(案)
第1号議案 2023(令和5)年度 事業報告
〃 決算報告並びに監査報告
第2号議案 2024(令和6)年度 事業計画(案)
〃 収支予算(案)
第3号議案 役員改選(案)/任期、2024-2025年度の2か年間
第4号議案 その他
定期総会&研修会の開催通知、出・欠等確認用ハガキは、3月8日付けエゾマツに同封発送

(編集部)

情報コーナー

- 末次健司さん (@tugutuguk) が、7:58午前on金, 3月01, 2024にポストしました：
約1世紀ぶりの快挙！新属新種の光合成をやめた植物を発表しました。その名もムジナノシヨクダイ（猪の燭台）！発見と同時に新属と認識され、現在もその属名が認められている日本産の維管束植物は1930年にまでさかのぼり、今回の成果は世紀の発見といえると思います！
（-中略-）日本の植物学という大きな視点で見ても、新属の発見は特筆すべき成果です。日本は植物相の調査が非常に進んでいます。このため、近年日本から発表される新しい種は、新種といえども、すでに誰かは見たことがある（=新種という判断はついていないにしろ博物館に標本が収蔵されている）ものばかりです。 ・ 抜粋・ 詳しくは、次のX（旧ツイッター）を参照
<https://x.com/tugutuguk/status/1763337892074820029?t=sZfui-JkMKZlr8pq0eJFhg&s=03>

※ 末次健司氏：神戸大学高等学術研究院 卓越教授 ～「菌従属栄養植物」などの研究分野における第一人者。日本生態学会、日本植物学会、日本植物分類学会、アメリカ生態学会などに所属。要旨／日本には、ヒナノボンボリ属、タヌキノシヨクダイ属、ムジナノシヨクダイ属(*)の三属も分布していることが明らかになった由。（*今回発見の新属新種）

お知らせ

- ◇ 2024 ボランティア活動保険「加入者カード」のお届け ・ 「加入者カード」等を同封
2024(令和6)年度ボランティア活動保険の「加入者カード」(令和6年4月1日～令和7年3月31日)を申込み関係者あて同封しています。新年度は、江別市社会福祉協議会窓口で諸手続中です。この保険は、会則に基づく全てのボラレン活動に伴う事故等が補償・賠償対象となるものです。新年度、何らかのボラレン活動に参加を予定の会員さまで、手続き未了の場合は、至急、意思表示、ご連絡をお願いします。
併せて、保険に繋がる事故等が発生した場合は、遅滞なく、事務局へご一報をお願いします。
→ボラレンの公式メールアドレス contact@voluran.com
- ◇ ボラレン「第39回定期総会」並びに「研修会」のご案内 ・ 開催案内文、別紙にて同封
来る4月13日(土)午後、札幌「かでの2.7」にて、定期総会と会員研修会を開催します。
13:00-開場、13:15-受付、13:30-研修会；講師 三澤由比子氏(登別市在住会員)
演題「キウシト湿原における取組～こども向け活動を中心に」
15:00-定期総会／2023事業報告、決算報告、監査報告、2024事業計画(案)、収支予算案、役員改選(案)～総会終了後、「臨時役員会」を開催予定（会員皆さまのオブザーバー参加可）
☆出・欠、委任状に係る”返信ハガキ”は、3月25日(月)までにご投函ください。
☆年会費(@3,000円)の納入にきましては、定期総会の受付時 若しくは 欠席の会員様には、総会資料等の郵送時に「入金伝票(赤伝)」を同封予定ですので、よろしくご申し上げます。
- ◇ 年度内の「自然観察会」 日程調整ソフト”調整さん”（既、配信済）でエントリーを
2024. 3. 21(木) 9:50-11:30 共催「森の中で春をさがそう」 担当/吉田(安)、春日
前日 3. 20(水) 9:45-話題提供 10:00-下見会 自然ふれあい交流館
- ◇ お詫び 前号の発送で、宛名ラベルシールが剥離する不具合から、一部で不達が発生しました。ご迷惑をおかけしましたこと、謹んでお詫び申し上げます。
- ◇ 2024「エゾマツ」夏季号149 の話題募集 め切：2024. 5. 17(金)メドで話題をぜひ！
ボラレン会報誌「エゾマツ」は、会員みなさまからの投稿がたより（便り＝頼り）です。テーマは、自由です。投稿欄、近況コーナー、まい・フィールド、随筆など奮ってご投稿を。次ページに、年間の発行計画（日程）及び編集イメージなどを掲載しています。
予め『原稿を出すよ』と、ご一報をお寄せいただけると幸い。次号は、6月7日付け発行予定。時には、個別にご投稿をお願いすることがあります。どうぞ、前向きにご対応をお願いします。



雪上を歩く「クモガタガガンボ」(♂)とボラレン・エンブレム

編 集 後 記

- 今号では、自然観察会のお客様からの寄稿に加え、会員の皆様からも幅広い話題をお寄せいただき、誌面を飾ることが出来ました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。
- 例年になく、年度末での退会意向が多く寄せられました。遠軽町の小栗法韶さま、平取町の川村桂介さま、清田区の片山弘章さま、南区の石山浩一さま、旭川市の山内政昭さま、永年に亘りボラレン活動を牽引し、お支えいただきましたことに、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。どうぞご健勝にて、引き続きボラレンを側面的に応援いただければ幸いです。
- 次号も、たくさんのお話で誌面が一層充実しますよう、ご協力を切にお願いいたします。
→2024 夏季号 149 は、6月7日(金)発行予定。 話題は、5月17日(金)迄をメドで！

- ・日々春めいてゆく今日この頃。温暖化の影響が少ない、穏やかな気象の一年であることを青空に向かって願ってしまいます。 K/M
- ・3月初めに本州へ帰省してきました。河津桜が八分咲き、楽しみにしていた梅がほとんど終わっていました。北海道の春も早そうな予感がします。 K/Y
- ・3月に入っても寒い日が続いていますが、陽射しの暖かさに春の来訪を感じます。今年はコロナ禍から開放され、通常の観察会が開催されることを楽しみにしています。 Y/Y
- ・「さっぽろ雪まつり」明けからの異様な暖気が一転して冬型の空模様が続き、コロナやインフルも依然要警戒。体調管理にくれぐれも留意され、本格シーズンに備えましょう。 I/F

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エゾマツ」2024 春季号 148

2024(令和6)年3月8日 発行

発行責任者：会長 春日 順 雄